

農学委員会農業生産環境工学分科会（第21期・第2回）議事要旨

日 時： 平成21年3月18日（水） 13:00～15:00

場 所： 日本学術会議5階 5-A（2）会議室

出席者： 青木正敏、後藤英司、鈴木義則、高辻正基、野口 伸[△]、野並 浩、
橋本 康[○]、早川誠而、真木太一[◎]、村瀬治比古、奥島里美[△]、小川保彦（事務局）

欠席者： 磯田博子、大政謙次、橋口公一、三野 徹、山形俊男

※[◎]は委員長、[○]は副委員長、[△]は幹事である。

資 料

1. 農学委員会農業生産環境工学分科会（21期2回）議事次第
2. 農学委員会農業生産環境工学分科会（21期1回）議事要旨（案）
3. 平成21年度理数系教員指導力向上研修事業（希望型）申請書
4. 地域活動支援 平成21年度申請書
5. 親子で学ぼう！わくわく親子体験学習募集案内
6. 環境教育に関する教師用指導書
7. 提言（案）遺伝子組換え作物実験施設の環境構築 Ver1.0
8. 名簿：農業生産環境工学分科会

議 事

（1）前回分科会の議事要旨の承認について

議事4.の「教育法については青木委員、大政委員がコンピュータを活用した方法などを検討する。」を「教育法については青木委員、大政委員、野並委員がコンピュータ等を活用した方法などを検討する。」に修正することとした。

（2）農業環境工学教育について

1. 早川委員より、農業環境工学教育に関するこれまでの活動が紹介された（配布資料3～6）。
2. 農業環境工学教育の提言内容や対象について今後検討していくことになった。4月頃から作業を進め、提言の具体的検討は夏頃から開始することとした。
3. 以下の意見が出された。
 - ・計測は環境教育の基本であり、各世代・場面で行うべきものであると考える。
 - ・測定・計測・観測など、関連する用語をきちんと定義、区別することも提言する必要がある。

（3）遺伝子組み換え実験施設について

1. 後藤委員より、配布資料に従い説明がなされた（配布資料7）。今回の議論（以下）やメールでのやり取りを検討し、次回分科会で、提言としてほぼ完成形となることを目処に作業を進めることとなった。
2. 以下のような議論がなされた。
 - ・遺伝子組換え作物が有機JAS法の対象外であることを記述するか検討する。
 - ・「モニタリング」は「データベースの構築」と混用されやすいので整合性のとれた無駄のない文章にされたい。
 - ・用語説明を加える必要がある。
 - ・「新たな視点で安全かつ効率的に構築・運用する」といったような、背景や取り組みの必要性がわかる文章を要旨に加える。
 - ・北海道産業技術研究所の遺伝子組み換え実験施設のアプローチとの違いが確認された。
 - ・要旨の「1. 作成の背景」に学術会議や技術会議のこれまでの経過を入れてはどうか。

- ・要旨の「1. 作成の背景」の「本提言は、…」は改行する。
- ・要旨の「3. 提言の内容」において提言の相手先を明確に記述されたい。また、食の安全やGMは社会的に重要な課題なので、声明や勧告も視野に入れた強めの提言となるような文章にされたい。
- ・要旨の「3. 提言の内容」の(1)と(2)のタイトル(「閉鎖系温室」、「特定網室」)も(3)のタイトルのように提言らしい、将来の方向性や社会への影響を感じさせるタイトルにされたい。また、法令やレギュレーションについても提言に入れてはどうか。
- ・本文のページ数は「1」からとする。
- ・本文の「2. 施設内の環境」の項は、これまでの現状と問題点について整理すると、「3. 環境構築」へのつながりがよくなるのではないか。
- ・本文の「2. 施設内の環境」は「2. 現状と問題点」に変更する。
- ・専門外の人にもわかるように、植物工場、ガラス温室など区別定義して簡便化したほうがよい。
- ・ポンチ絵があると、イメージがつかみやすいのではないか。
- ・図2において、太陽光型でありながら(補光)ランプが存在する説明や余分な情報(雑草)のカットが必要である。
- ・本文の「4. 組換え作物の生産圃場としての利用」は、今後重点を置き、拡充してはどうか。
- ・本文の「4. 組換え作物の生産圃場としての利用」は、提言先も書き入れる。
- ・研究ベースなのか、商業ベースなのか、提言先、ターゲットを明記しておいた方がよい。

(4) その他

次回は6月2日13:00～開催することとした。